

理事会報告 1

日本菌学会 2019 年度第 1 回理事会 議事録

日時：2019 年 4 月 21 日（日）13：00 - 18：00

場所：東京理科大学葛飾キャンパス・研究棟 11 階 生物
工学科ゼミ室 1

出席者（順不同、敬称略）：

会長 山岡裕一、岡根 泉（庶務）、清水公德（庶務）、
田中千尋（企画・普及）、玉井 裕（日本菌学会会報編
集責任者）、中島千晴（会計）、山田明義（国内集会）、
鶴海泰久（会計監査）。次期会長候補 田中千尋、次期理事候補 清水公德
（庶務）、田中栄爾（編集）、谷口雅仁（国内集会）、
中島千晴（AMC）、伴さやか（庶務）、本橋慶一（会計）、
山田明義（国内集会）、次期幹事候補 折原貴道（庶務）、
山口 薫（会計）。委任状：矢口貴志（副会長）、太田裕子（企画・普及）、
出川洋介（国際集会）、名部みち代（国内集会）、服部
力（編集）

会議成立の確認

2018 年度までの役員から 2019 年度の次期の移行期につ
き、新旧両方の役員及び役員候補が出席し、2018 年度ま
での報告事項については旧理事が、2019 年度事業計画に
ついては理事候補から議題提起されオブザーバー参加す
るとして開催された。理事 11 名の出席（委任状含む）に
より、理事会が成立したことを確認した。

報告事項

1. 庶務関係（清水・岡根 庶務担当理事）

前回理事会から特に進捗なし。

1) 会員の追悼文について

名誉会員は日本菌学会会報（以下、日菌報）、会長経
験者は Mycoscience に追悼文を掲載することになって
いる。その他の著名な先生は個別対応とし、編集委員
長が原稿依頼を行う。

2. 国内集会関係（山田・名部 国内集会担当理事）

前回理事会から特に進捗なし。

3. 国際集会関係（代読 山岡会長）

1) 日台合同国際シンポジウム・ワークショップについて
昨年度 11 月に開催されたが、日本菌学会関東支部に
て未だ収支決算が締められていない。しかし本学
会の会計としては領収書を押さえているため問題はな
い。

4. 企画・普及関係（田中千・太田 企画・普及担当理事）

前回理事会から特に進捗なしだが、前回決定した事項に
基づき、本学会ウェブサイトの個人会員のウェブサイト
へのリンクを削除した。

5. 編集関係（玉井 編集担当理事）

1) 学会誌の発行状況と投稿規定の改正

日菌報は第 60 号に 4 報投稿あり、うち 1 報が印刷準
備中。投稿規定を一部変更し、責任著者が会員であれ
ば投稿者が非会員でも受け付けることとした。

2) 編集経費

・ J-stage の掲載料の支払いが 2018 年度分に間に合わ
なかった。

・ 日菌報の英文校閲料の支出が未定。

3) Elsevier Editornal System (EES) について

編集担当者の変更に伴う権限付与の依頼をかけている
が応答がなく困っている。早急に、会長名を添え強く
催促することとした。

6. 会計関係（中島 会計担当理事）

1) 2018 年度の決算報告

・ 資料に沿って説明が行われた。日菌報の印刷費が若
干増、ウェブサイトの制作費は英語ページの作成が
間に合わなかったため、減額。会計監査は 4 月 15
日に実施された。・ 2018 年度大会の要旨集の J-Stage 掲載料が日菌報の
編集費として加算されていた。今後は大会費用に積
むべきだ。・ 約款としての年度は 3 月末日とし、新役員が総会で
承認されるまでの 4-5 月の予算執行は次年度分に持
ち越し。役員は新旧の交替が 5 月以降になるため、
4 月の執行は旧役員の判子を押すことにしている。
前年度の執行分で間に合わなかった分は次年度予算
案に繰越した。新年度予算案は総会で決定するまで
は暫定予算である一方、約款では、前年度に次年度
の予算を決定すると示されているため、状況に応じ
て日付通りで会計処理したい。今後は年度末ぎりぎ
りの理事会の開催などしないよう注意する。

7. その他

1) 各種委員会について（山岡会長）

・ 日本学術会議 総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・
病原体学分科会合同会議（4/19）への参加報告がさ
れた。

2) データベース委員会

・ 日本産菌類集覧データベースに、勝本先生の日本菌
類集覧に掲載されている種名リストが掲載され、学
会 HP から公開された。

審議事項

資料にもとに以下の事項について審議した。

1. 庶務関係（清水 庶務担当理事）

1) 業務委託・会誌の出版について

- ・前年度に引き続き、学会一般事務業務を勝美印刷に、税務士業務を網野誉税務会計事務所に委託することが承認された。
- ・Mycoscience の出版業務を委託しているエルゼビア社との契約は 2020 年までで、もし契約内容の変更の可能性があればその前年である今年度にしななければならない。新理事の中から WG を作り対応を検討することとした。

2) 会費の値下げの検討

- ・例えば国際会議を見直す、Mycoscience の編集費用で投稿者負担の割合を増やすか、商業誌として独立させるなど幅広く検討すれば、法人会計として 10 年はもつ計算となる。特に会誌の支出では、一部業務委託等の運営形態の見直しによりスリム化できる可能性はある。一度会費を下げると再値上げの要求が難しく、会員増の見込みもないため、実行するならば早い段階から話を進めるべきだと意見があった。

2. 国内集会関係（山田 国内集会担当理事）

- ・第 64 回大会（2020 年度、大阪）の日程と大会長が決定した。
- ・来年度（2020 年度）の観察会は日帰り、関東地域で検討を始めている。

3. 国際集会関係（代読 山岡会長）

1) 国際学会への参加補助について

AMC2019 の参加について、日本菌学会の会員を対象に振興基金から 1 人 2 万円程度、合計 10 名程度（合計額の上限 50 万円）の補助を行うことが承認された。応募資格について、会員であっても会費の滞納の有無や演題分野を審査することが議論された。

2) AMC 運営委員の選出について

会長が菌学会の代表として出席しており、IMA も AMC も 5 年で切り替えなので、次回東京での委員会時に交替としたい。

4. 企画・広報・教育・普及関係（田中千 企画・広報・教育・普及担当理事）

1) 賛助会員の特典について

学会ウェブサイトのトップページに賛助会員の特典としてロゴを掲載したい。科研費のロゴマークも併せて、勝美印刷と技術的な面の話し合いに移行することが承認された。もともと、ニュースレター（以下、NL）に 1/4 ページ分の広告掲載ができるという特典があるが、利用されていないため周知に務める。

2) ウェブページのドメイン料について

ドメイン（mycology-jp.org）の中に関東支部など他の団体が入っている状況。勝美印刷へはサーバー運営料として一律支払いでドメイン料だけが分けられないため、現状維持でいくことが承認された。

5. 編集関係（玉井 編集担当理事）

1) 日菌報の投稿減少への対応

- ・過去の記事を J-stage に公開するにあたり、総説、短報、資料、解説（以上、著作権の同意書の提出必要）のカテゴリーのうち、どこまで掲載範囲とすか。学会活動の PR になるため、観察会での資料などは積極的に出していきたい。内部的な学会記事は除いて、随時、相談するということが確認された。
- ・日菌報の投稿規程に日菌報を「学会誌」として明記し、英文投稿も受け付けることとしたい。Mycoscience はエルゼビアが出版し、菌学会が編集している国際誌である一方、日菌報は菌学会の学会誌である。英文が投稿された場合の編集は、Mycoscience の編集委員会に乗せて進めたい。日菌報は、日本新産種の報告など、ローカルな分野の内容にして Mycoscience との住み分けを明文化すべきである。同様に、技術情報、標本の収蔵記録など、査読がつかない NL との住み分けを調整する。和名提唱を NL に掲載できるかの是非も含め、文章案を編集委員会で審議し、次回理事会に提案できるよう準備を進める。

6. 会計関係（中島 会計担当理事）

1) 2019 年度予算案について

- ・法人化維持費は、役員交替の登録変更の手続き代行料が追加で必要となるため増額した。
- ・大阪大会への補助費は 20 万円として計上することが承認された。
- ・観察会の下見に係る経費を新設した。年により、地方の時と関東近郊予定の時で大きく予算が変動する見込み。

7. その他

1) AMC2019 関連

- ・現在の申し込み状況の報告がされた。
- ・託児所にベース料金 20 万＋派遣 7～8 万円／人となる見積もりが出たところ。個人負担は 1 万円未満を検討している。参加者の情報を収集し、保育士組合等を通じてコスト減をはかりたい。

2) 次回理事会、総会の進行の確認

- ・監事と選管の選出にきちんとルールがない。次期候補者に声をかけて準備を進める。

以上。